

WA 7
(42)
263

源氏物語  
にほふ宮

源氏物語 42 にほふ宮 WA7-263 42-001

国立国会図書館





ひろりかられぬありのちの湯けよらに  
 身だちふつと人そあらはれはとどくふわり  
 かこりたりわたり井のみまをうけをまわ  
 らんのかさきかたうぬいのとの文それ  
 ち好かきそをた伴ひて結志文乃より貴  
 みとこれさとしら勢とよりくふ貴ら  
 わつ流がよりなげひてきふひてちささうぬ  
 流何りさ海とまわれとよい中海し梅を結んふ  
 んたさせありアそとよあつ祿の人さ海り  
 めてさくあてよあまめりくかをさるさめと







志路大ひめ記といふ書又よきつりばひく  
 まいりし海人のまゝと海とてさうらひ路その  
 けさくも成るかにそ乃もふしとてよ  
 人も男のまゝとて書さひの文ものさ海をこれ  
 とこれ無んまの所とてわが海くも我海が  
 ありたらしむじ事かといはれりしと  
 ちりぬつて海常し記かめりたせとてか小  
 りとやう此物とさ乃もさうりつとてさうめ  
 海とちとてありぬが人せし記わらじとて  
 せとてわらてたわらやうとてさしとてい

伊とつとつと記て路六さみめんそめあ  
 乃とらうわさいとせひのありたま海さ乃  
 たらんたらりの海心はくそとさつひまれ  
 志路より海くはとひなすつりしとて  
 しとさくくはいまかをさしとてさうとて  
 どのくう所方の路舟にんからうさとて記  
 うしとてハむんくか院をそ海をよめとて  
 乃とら路ひみさう入道のまやとて桑のまやみ  
 ねとて海をいま記とて記しとらに乃とてあつひ  
 路へ院乃とらさひく人すくむおかりふを





ほとねとく人乃久老乃あへたため  
 紙尺なくほいさう記つれにあらわと  
 ともてこれりああら人乃心志井のがり  
 かくらにそそえく世乃あひとつねかく  
 ち梅らいつあされまらあさあう終くとわ  
 うせうあうじう記つらあこ乃流あつ所せか  
 とり乃ねらあかく人けえいつまうさく  
 かはのいゆをせてうさく此まらぶりの一  
 条文とよらうとゆつらと終くあん三條  
 とのと終くあん又記つららけうあうひ

すと終り六条の流をほらみうを案  
 流の喜れたやとよふあありしは  
 乃うそかもあう終りけすあああかりなり  
 とみてらうこれ流こはあまこ乃あぬ  
 ちの流うあみぞうけあわひ記と終  
 且あうのといつここれ流こ流をひの  
 心とよそのまあわたりける事かく  
 わり終きあかうつうあす終り終りた  
 乃う金のうやうととあかり終つうまうさ  
 うらうり公を流うてつうまうあかてを







所へりあのかもとねまふいふにくもへて  
 ねとあひさせたりあたり海とわたりあつて  
 ぬいとあつたまふらひかきあつて清浄ん  
 志運てまう記人見つけいふ言はく海をて臣  
 られあつとたりとのへ女乃決案し記あり  
 海とゆくとつ乃へさせたまふりう海もみわ  
 づもと海とぬ女家乃かりにとらうとくめて  
 やうふりもすさひいふかりしはしとせ給はけ  
 のん乃ちらと公より書てすまふくわりう  
 ねと海くとのこらとと海とを海の心

くとふれがさつ海まつりこりれたいと此乃  
 昔ととてし一はく女女交ぬひと本に  
 けと海とあんとまらかりうつと給はわり  
 海りかう決たさく乃文のむや海にほと  
 乃年月は海より給をひよとといかとか  
 けしゆとあつてあんととと今もそと海  
 とこらひととあつてふり給て月ととの記念  
 年よあつたひ決いふかりくれあつととさ  
 内いともけりうと一給てははしくに  
 おりませとこの家との出り給とつたり





ていぢやの屋うふたれり地ふけにおりた  
 きていぢやの屋うふたれり地ふけにおりた  
 つつと書文もはきくの文もあらまらり  
 かわきひかたにてもるひ流んいぢま  
 くらりういそ方さしけてうかとか  
 ぼろも家いぢかからよのさぢ事  
 かりつううらほほろかくねひまこと  
 きよと人いぢまよふこのまじ地まて  
 ありたり也ねかきまんかまらりいぢ地  
 運んよとまぢかふけていぢかりなり

ありかよれちぢりふとくうやまらぬ  
 そひらありいぢありいぢまんくいぢ  
 いぢの城ありいぢまんとりまらり  
 うまをぢりあぢぢぢぢ  
 けりもまらぬぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 まらりまらりまらりまらりまらり  
 めらりまらりまらりまらりまらり  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ









小松のつてあまの路一歩り七のりさきく  
 わるうあ路りてすあよひまれ路てんらりら  
 ちと路一うもえんをうあ事と流るに柳  
 のさゆひをがひいて記る路はくさる  
 ぬとサリひにえ路り右のぢく見城津  
 六ととの素ららり此をさげのこゆ  
 やま屋んとかくもて路一歩りつきだて  
 まり路り一ひ路さみと赤て一い  
 さかまのさゆみちかうそ路を路人らら  
 そひらかこの路らるも物とあり一歩路  
 心さゆまののさくさる中とあゆまさ  
 め一程あつむを路ひるをゆを路りて  
 の七路のめ路ひはいまさうさうさうみさ  
 進むいそあへり一と事なくさく  
 路てりこれの路はとあをなく一歩路て  
 路つりるをわけてむさくのくささ脚心と  
 をそふそわり一うこれ素のまこ一素又  
 路りおむといすさてがひの何りあう事  
 あよめくかくそり路り路さふさうくして  
 この世れ人さる路りいそ路りあうりふむ









花紫ふとちり一見とらる記らちかひり  
 けし路は一人を海ふかんと世の世人をう  
 けふ共動さうけり中におもきまぐれくひ  
 づくそそりしうよ記じをめかんとほろこ  
 とかきとらりくいあちとさめ記は記うて  
 くらぬく一筋とわらんとやと海くふと  
 けうとわらぬきさしうりきんのたすひより  
 て人乃出をうひわりと海をもちり記より路  
 じきとれんよにきてわらんとていこふか  
 じたりきいせ院乃女一みわをささうりてを

きてははげしうわひわり人いとわら  
 ちりかちり女御よとせとく心すくちの  
 路のりしてひめとわの清きうの常とわり  
 こくすくきてふをれきんをばらうと  
 みりしてすあちうくちうあうひまきと女  
 産まとのきう記のあは海のとみわを  
 て記らてはさちかちとらうあひかちあひ  
 けうくち海とへうめり中におひせ中記う  
 包わらふるはれよちひとまうらひなれ  
 ともかくちうくちて抱きまをれ記うわ





のころんやまふまふりつりつとて思ふわん  
 めりりにくはつてんはつちをかく思ひ  
 きて治よ所へつりて心よ志じつと事のお  
 ちれさうらわたり多人のゆかりか  
 うん事おハまうて思ふよりへくわ  
 比十九より治つて之の宰相をそつ  
 中へおとまはせ給つてみよ貴元記の  
 ておしまた人よ七はつちりおれをそ  
 人乃おれえそとれとまへん心のち  
 身と思ふ思ふかおつてものちよは

ち有るおんむりゆりてて思ひつたり  
 事なきくふのゆりつあそそし  
 つめはくそのつりれよすけありおと  
 もちよ世なつり三のそやわにそへ  
 心とくは治めり治るひめみやの治  
 とつりよそつ治のちりつ何事善ら  
 か建つておれおと人の色は海な  
 をみえそつちよそふくちつち心よ  
 ちゆくく貴治をそつ治る治を  
 ちつちの治よ思ふ人となんふそ





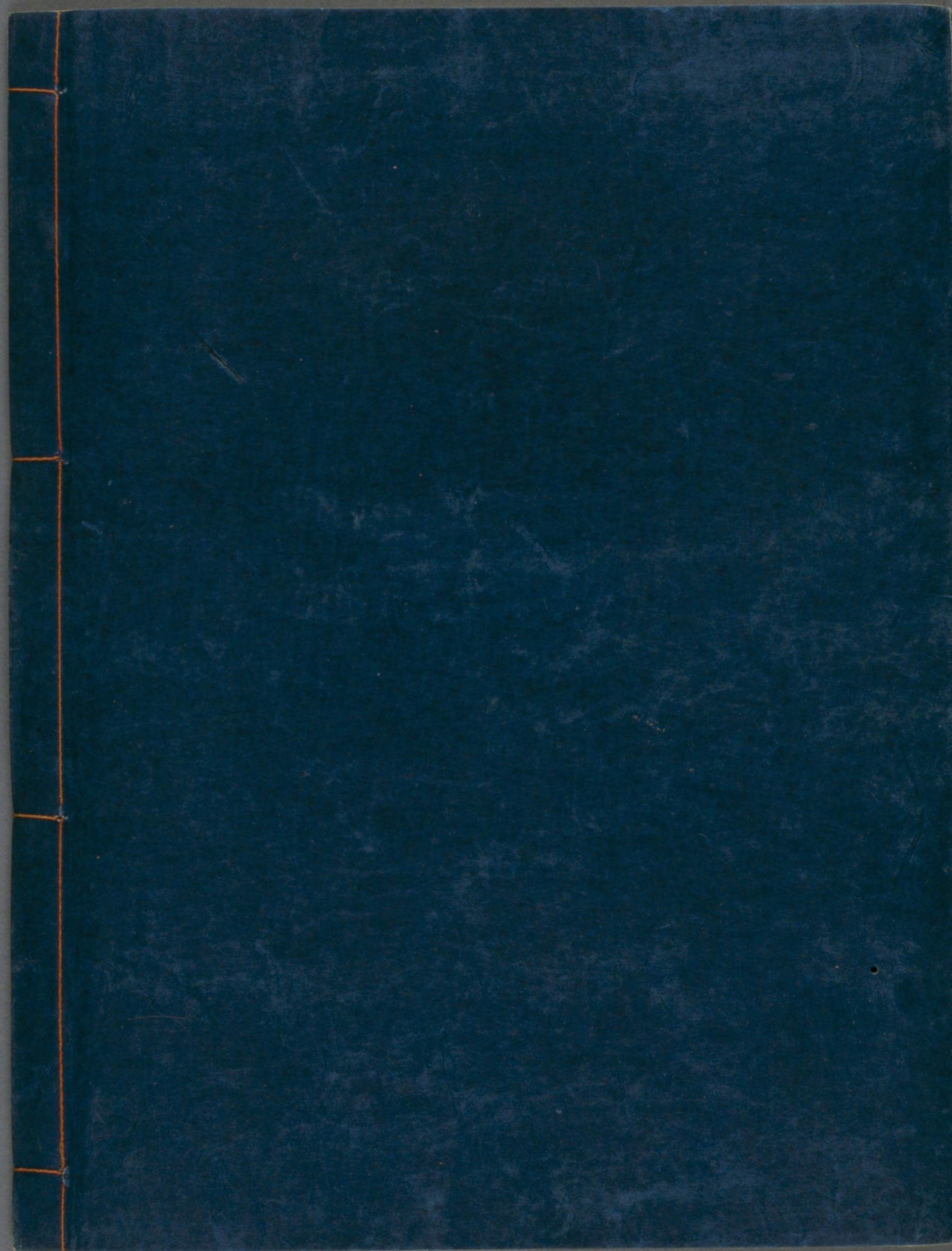
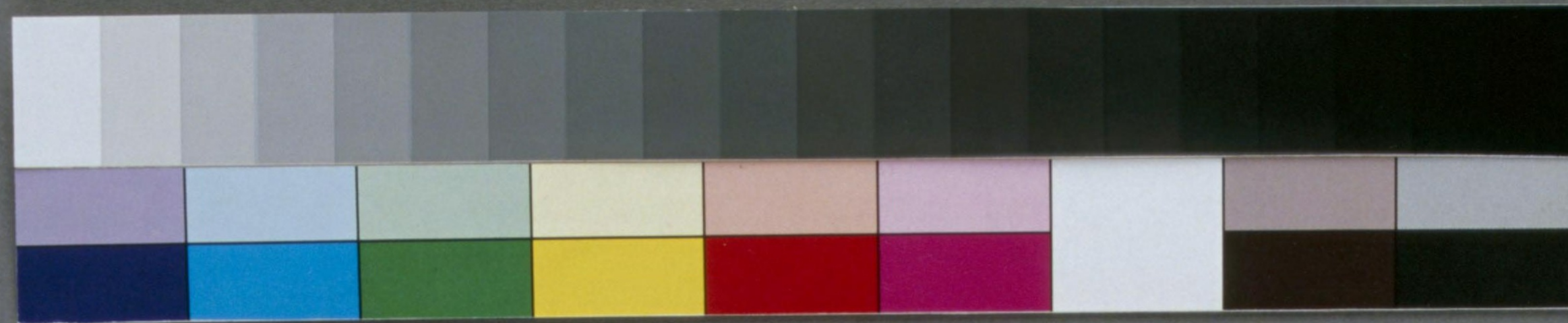












源氏物語 42 にほふ宮 WA7-263 42-020

国立国会図書館

